

21	学 年	単 元(題材)	学 習 内 容
	6	単位量あたりの大きさ 1	速さを比べる。

「走るのが一番速いのは誰でしょう。」

	m (距離)	秒 (時間)
Aさん	80	13
Bさん	100	15
Cさん	80	15

誤答例

- ・ Aさん $13 \div 80 = 0.1625$
- ・ Bさん $15 \div 100 = 0.15$
- ・ Bさんの方が速い

つまずき方

- ・ 「1秒あたりの距離」「1mあたりの秒数」が式と結び付かない。
- ・ 1秒か1mか、もとにする単位が異なる場合、求めた数値の大小でどちらが速いか判断に迷う。
- ・ 計算間違い。
- ・ とりあえず割り算をしてしまう。

原因

- ・ 速さを数値として表すという概念が難しい。
- ・ 1mあたり何秒かかるかを求めているのだが、計算で求めた答えの数値が大きいと「速い」と判断してしまう。

支援の手だて (指導方法, 教材・教具, ワークシート, ヒントカード, 指導形態の工夫など)

- (1) 複数の条件が混在するので、比較に戸惑っている児童には、問題の数値をよりわかりやすくするために、秒数や距離を色分けしたり、二者ずつに分けた表を提示したりする。

	m (距離)	秒 (時間)
Cさん	80	15
Bさん	100	15

	m (距離)	秒 (時間)
Aさん	80	13
Cさん	80	15

- ① 時間を基準に考えると、Bさんの方が長い距離を走っているので速いことになります。
- ② 距離を基準に考えると、Aさんの方が短い時間で走っていますから速いことになります。これは**短距離走などを思い出すとイメージしやすくなります。**

このように時間や距離を軸に比較することは、課題の意味を把握するためには有効な手だてと思われます。

「速さ＝距離÷時間」の公式で求められますが、課題の意味を理解することが困難な児童に対しては、こうしたステップが重要になりますね。

